

道路の維持管理、 今のままで大丈夫ですか？

住民からの道路に関する通報や
要望が膨大で、日々の対応
だけで手一杯だ

点検データが蓄積されて
いないから、補修計画が
立てられない

職員も予算も限られているから
点検の頻度を上げられない

**道路の劣化は
待ってられません！**

現状の課題

課題1

限られた予算と体制

- ・日々の住民通報への対応だけでも現場担当者は業務過多
- ・住民からの補修要望に対する予算の確保が困難
- ・予算に合わせた補修箇所の選定や優先度付けが難しい

課題2

現状把握と点検頻度

- ・電気・ガス・水道などの占用工事が多く、最新の状態把握が困難
- ・路面性状調査(MCI*)は高価な為、測定範囲や頻度を制限するしかない
- ・そもそも点検の時間と体制が無く、対症療法的な管理となってしまう

*MCI: Maintenance Control Index

課題3

PDCAの持続

- ・日々の現場確認の記録、現場担当者の作業時間が計画通りにいかない
- ・維持管理計画を作成する為の点検データの記録・蓄積・評価を行う技術者が不足
- ・継続的に蓄積した点検データがないので、最適な計画の策定ができない

解決のヒント

なるほど！

問題を解決するためには、以下のような対策が有効です

- 業務を増やすのではなく、普段の業務を活用
- 高価な専用機材ではなく、日々進化する汎用機器（スマホ）を使用
- 道路全体をスクリーニングし、相対評価で劣化箇所を抽出します

データを自動的に収集・蓄積し活用

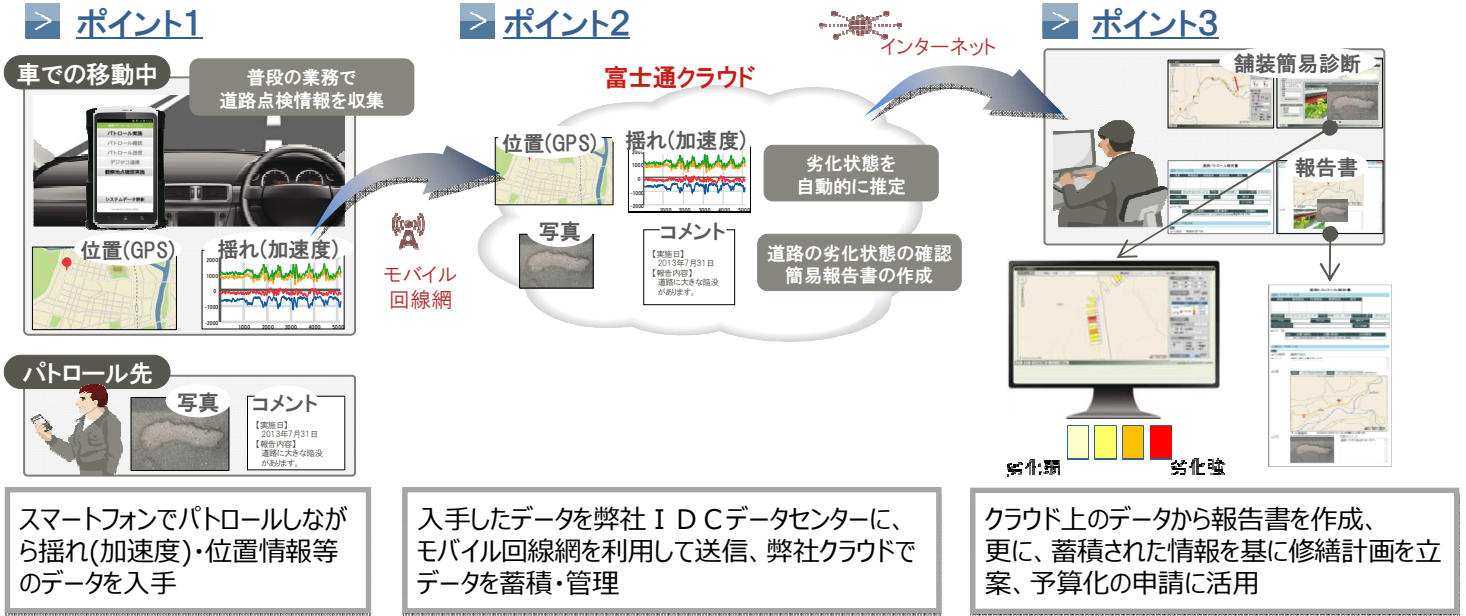


点検範囲の拡大、点検頻度の向上

その課題、道路パトロール支援サービスが解決します！

解決策

現場に負荷をかけず、低コストで定量的に劣化状況を評価



スマホを使った道路の劣化状況診断の有効性が認められてきています！

- ・受注 9 団体様、受注見込・商談中 16 団体様 ※2016年3月現在
- ・千葉県柏市様の取組事例が国土交通省 グッドプラクティスに選定
- ・国土交通省で制定予定の舗装点検要領でスマホ活用による効率化の推進が明記

導入したお客様の声

- ・パトロール業務終了後の報告書作成処理に時間を要していたが、格段に改善された
- ・容易に舗装の点検が行えるため、点検範囲の拡大が期待される
- ・低コストで舗装の点検データがほぼリアルタイムに得られるため、補修計画が立て易くなった

サービス提供範囲

 パトロール作業	 モバイル回線網	道路パトロール支援サービス	 インターネット	 事務所作業	月額 10万円～
本サービス提供範囲					
スマートフォンアプリ (端末識別番号登録)		道パト サービス機能 ゼンリン地図サービス		パソコン用ユーザーID	
別途ご用意					
(富士通製)法人向け Androidスマートフォン		(富士通提供)FENICS インターネットサービス		インターネット回線	パソコン

※使用できるスマートフォンは、本サービスの動作確認を行った富士通製機器です。

スマートフォン(端末)+モバイル回線+端末&OSサポートをセットで 月額**4,780円** でご利用いただけるサービスもご提供！

お問い合わせ先